

平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立一条中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語 157人	社会 160人	数学 159人
	理科 161人	英語 161人	

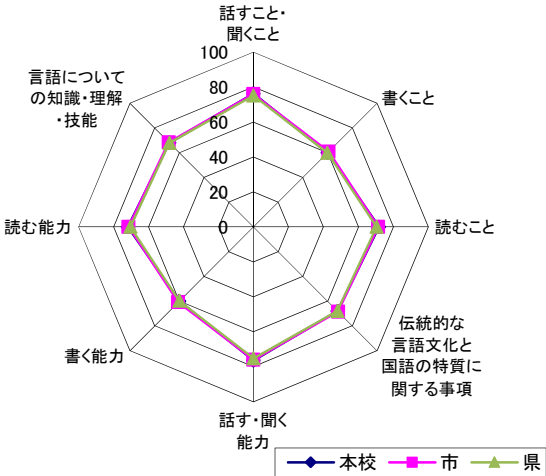
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立一条中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	76.3	76.0	75.2
	書くこと	60.0	60.9	59.9
	読むこと	71.8	71.4	70.4
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	68.1	68.5	68.0
観点	話す・聞く能力	76.3	76.0	75.2
	書く能力	60.0	60.9	59.9
	読む能力	71.8	71.4	70.4
	言語についての知識・理解・技能	68.1	68.5	68.0



★指導の工夫と改善

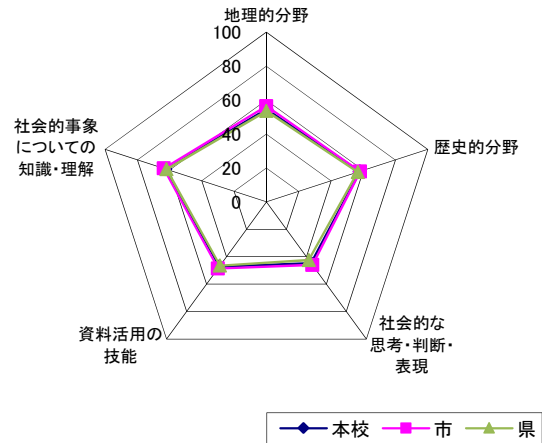
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○話すこと・聞くことに関しては、県よりも1.3ポイント上回っており、市よりも0.3ポイント上回っている。設問別では、基礎的な話し方・聞き方の理解はできている。 ●資料の効果的な活用方法についてはやや下回っている。	・授業の学習形態を工夫し、スピーチ、意見文の発表、ディベート、小グループでの話し合い活動を取り入れながら、話すこと・聞くことの指導を継続していく。
書くこと	○書くことについては、県より0.1ポイント上回ったが、市より0.9ポイント下回った。設問別では、提案することなどをまとめる設問の正答率が、県や市と比較して高い。 ●メモを基に、活動報告書の見出しにあう言葉を書く設問については、県より6.7ポイント、市より6.0ポイント下回っている。	・教科書で取り上げた作品ごとに、感想や自分の意見を文章にする経験を通して、文章を書くことに慣れさせる。 ・授業の中で、メモを取る活動を設定し、書く機会を多くすることで、書く力を伸ばす。
読むこと	○読むことについては県より1.4ポイント、市より0.4ポイント上回っている。設問別では、特徴的な表現をふまえて物語を読む設問や文章中の語句が指す内容を捉えて読む設問の正答率が市や県を上回っている。 ●文章中の空欄に入る接続語を選ぶ設問については県より1ポイント、市より1.4ポイント下回っている。	・文学的文章と説明的文章の読み取りも、日頃から音読に取り組み、説明や評論の文章は、接続詞をもとに構成や展開に注目させる指導を行う。 ・幅広いジャンルの本に親しめるように読書指導を継続して行う。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項については、県より0.1ポイント上回り、市より0.4ポイント下回っている。設問別では、漢字の書き取りについて正答率が高い。 ●漢字の読み書きについては同訓・同音に関するもの、また歴史的仮名遣いの正答率が県や市の平均を下回っているものもある。	・漢字学習の定着のために、漢字学習ノートを活用し、毎週漢字テストを行う取り組みを継続しながら、漢字の語句の意味を理解して、文章の中で使えるよう指導する。

宇都宮市立一条中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理的分野	54.5	56.4	53.5
	歴史的分野	57.8	58.0	56.6
	社会的な思考・判断・表現	44.8	46.1	42.5
	資料活用 of 技能	47.2	48.6	46.5
	社会的事象についての知識・理解	62.7	63.6	61.9



★指導の工夫と改善

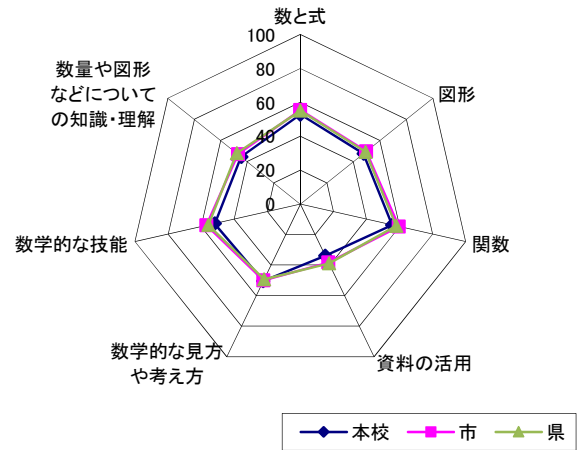
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○地理的分野は県の平均と比較して、1.0ポイント上回っており、設問別では、大陸の名称や北アメリカ州の山脈の名称を答えるような基礎的な問題に関して、県や市の正答率をそれぞれ上回っている。また、地球儀上に示された地点の経度を読み取る問題は県の平均を10.2ポイント、市の平均を7.8ポイント上回っている。 ●設問別では、南アメリカ州の川の名称を答える問題は県の平均を14.3ポイント、市の平均を16.1ポイント下回っている。適切な地図を選択し、示された地点の方位を答える問題は県の平均を6.1ポイント、市の平均を8.4ポイント下回っている。また、雨温図を読み取る問題も県と市の平均を下回っている。	今回、南アメリカ州の川の名称を答える問題や雨温図を読み取る問題の正答率が低かったことから、地図や資料の読み取りに課題があると考えます。今後は、授業の中で、地図や主題図、写真などを読み取る活動をより充実させていく。また、既習の用語に関しては、適宜、意味や役割などを復習し、基本的な知識の定着を図っていく。
歴史的分野	○県の平均と比較して、1.2ポイント上回っている。設問別では、特に室町時代におこった戦乱の名称を答える問題の正答率は52.3ポイントと、県や市の平均正答率を15ポイント以上上回っている。また、応仁の乱のころの社会の状況について問う問題や日明貿易に関する問題は県と市の平均を上回っている。 ●縄文時代から平安時代までの問題に正しく解答できている生徒が県や市と比較すると少ない。特に、資料から弥生時代の社会の変化を考察する問題は県の平均を0.2ポイント、市の平均を3.8ポイント下回っている。また、年代の表し方に関する問題は県と市の平均ともに5ポイント下回っている。	縄文時代から平安時代までの知識の習得に課題が見られた。今後は時代の特徴や当時の社会の変化などに着目し、時代を大観させるとともに、出来事や人物などといった基本的な知識を確実に習得できるような、授業の工夫に力を入れていく。また、視聴覚資料を有効的に活用し、当時の地図や史料を読み取る機会を増やしていく。

宇都宮市立一条中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	52.8	55.4	55.0
	図形	47.7	49.8	49.2
	関数	55.5	59.6	58.0
	資料の活用	33.8	38.3	38.9
観点	数学的な見方や考え方	50.4	50.0	49.3
	数学的な技能	51.8	56.7	55.7
	数量や図形などについての知識・理解	44.6	47.0	47.9



★指導の工夫と改善

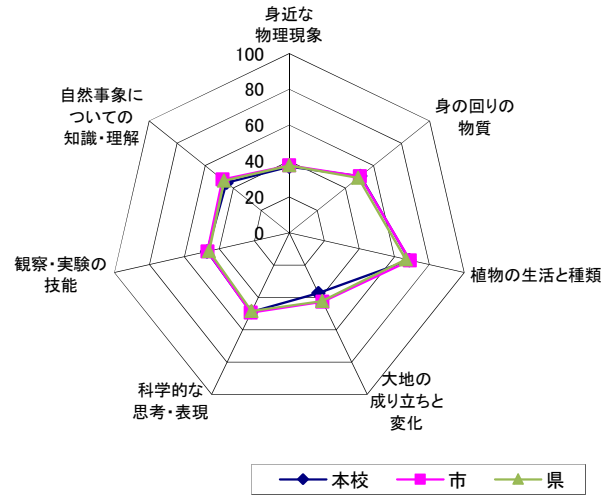
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○数量の関係を文字式に表す問題において、市の平均正答率を1.3ポイント、県の平均正答率を2.3ポイント上回っている。また、文字式の活用の問題においても、市や県の平均正答率を1～2ポイント上回っている。 ●正負の数の計算(四則混合)や、一次式の計算(一次式と数の除法、分配法則)などの基礎的な問題において、市や県の平均正答率を5ポイント以上下回っている。	・基礎的な計算力をつけるために、計算の仕組みを深く理解させ、十分な問題演習の機会を通して計算力の向上を図る。
図形	○△ABP=1/2△ABCとなる点Pを作図する問題において、市の平均正答率を3.3ポイント、県の平均正答率を5.5ポイント上回っている。また、回転移動後の三角形を図から選ぶ問題や、底面が合同で高さが同じ柱体と錐体の体積を比較する問題においても、市や県の平均正答率を約1ポイント上回っている。 ●おうぎ形の面積を求める問題において、市や県の平均正答率を約12ポイント下回っている。	・おうぎ形の面積や、円周の長さは中心角の大きさに比例するということを再確認し、理解を深めていく。 ・身近にあることがらの中に数学を発見する体験を授業に多く取り入れ、身近なものを数学のかたち整理しながら理解力を高めさせる。
関数	○与えられた座標に合う点の位置を選ぶ問題において、市の平均正答率を1.1ポイント、県の平均正答率を1.4ポイント上回っている。 ●比例のグラフから式を求める問題において、市や県の平均正答率を、16ポイント以上下回っている。	・比例は1次関数の特別な形であることから、1次関数と関連づけて考えさせることで理解を深めさせる。 ・表、式、グラフのもつ長所、短所を正しく理解させ、目的に応じて適切に使用できる力を育成する。 ・関数の良さを知ること、関数についての理解をさらに深めさせる。
資料の活用	●度数分布表から中央値が含まれる階級を答える問題において、市や県の平均正答率を5ポイント以上下回っている。また、総体度数を求める問題においても、2ポイント以上下回っている。 ●一方の選手を選び、選んだ理由を説明する問題においても、市や県の平均正答率を4ポイント以上下回っている。	・中央値、最頻値、階級値等の用語を知識として理解させるだけでなく、身近な具体例を用いたり、度数分布表やヒストグラムからどんな事が読み取れるのか、考える活動を増やし理解を深めていく。

宇都宮市立一条中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	36.9	37.6	37.5
	身の回りの物質	50.7	50.5	49.1
	植物の生活と種類	68.7	69.0	66.6
	大地の成り立ちと変化	37.3	42.7	42.2
観点	科学的な思考・表現	49.1	49.4	48.5
	観察・実験の技能	47.0	46.8	45.9
	自然事象についての知識・理解	44.8	47.6	46.5



★指導の工夫と改善

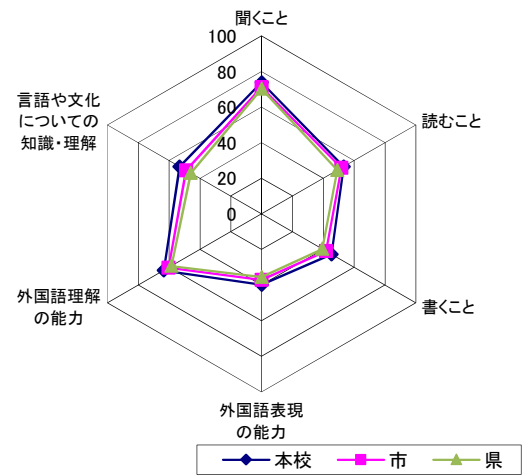
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	○設問別で、物体が机を押す力の表し方を問う問題で、県の平均を3.5ポイント上回っている。 ●領域全体では、県の平均を0.6ポイント下回っている。設問別では、力の大きさとばねの伸びの関係のグラフを改善する問題で8.1ポイント、他者の考えた実験の方法を検討し改善する問題で6.2ポイント、県平均を下回っている。	・グラフについては、各学年で何度も出てくるものなので、その都度、そのグラフが何を意味しているのかを丁寧に説明することでグラフの読み取り方について理解させる。 ・何のために実験を行うのか。予想としてはどうなるか。実験の結果を適切にまとめられているか。結果から何がわかるか。わかったことをどのように活用していくのか。以上のことを常に考えさせながら、主体的に実験・観察に取り組ませる。
身の回りの物質	○領域全体では、県の平均を1.6ポイント上回っている。設問別では、ガスバーナーの操作方法に関する問題で12.8ポイント、メスシリンダーの操作方法に関する問題で2.5ポイント、県の平均を上回っている。 ●設問別で、質量と体積を基に密度を求める問題で2.9ポイント、水溶液の質量パーセント濃度を求める問題で2.0ポイント、県の平均を下回っている。	・密度や質量パーセント濃度などの計算問題については、プリントによる問題演習の充実や、小テストを実施して定着度を確認しながら、その結果を指導に生かしていく。
植物の生活と種類	○領域全体では、県の平均を2.1ポイント上回っている。設問別では、光合成に日光が必要かをしらべるために比べる部分を選ぶ問題で5.5ポイント、実験の結果を基に比較して分かることを説明する問題で5.9ポイント、県の平均を上回っている。 ●設問別で、双子葉類における葉脈、根、茎の断面の特徴に関する問題で、県の平均を2.0ポイント下回っている。	・植物の体の各部分の名称を用語だけではなく、図を見てどの部分を指すのかも理解させ、問題を繰り返し解かせるなどして定着を図る。
大地の成り立ちと変化	○設問別で、示された情報を基に柱状図を推測する問題で、県の平均を6.9ポイント上回っている。 ●領域全体では、県の平均を4.9ポイント下回っている。設問別では、地層ができた時代を推定する化石の名称を問う問題で14.8ポイント、岩石のつくりの名称を問う問題で12.2ポイント、県の平均を下回っている。	・基本的な用語の正答率が低いことから、それらの用語が身に付いていないと考えられる。単語だけでなく、その意味することを丁寧に説明しながら、用語を覚えていけるようにする。また、基本的な用語を問う小テスト等で、繰り返し答えさせることで定着させる。

宇都宮市立一条中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	73.8	71.1	70.2
	読むこと	53.2	51.8	49.1
	書くこと	45.3	41.8	39.4
観点	外国語表現の能力	39.8	37.1	35.5
	外国語理解の能力	63.5	60.4	58.5
	言語や文化についての知識・理解	53.3	49.0	46.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○聞くことに関しては、市より2.7ポイント、県より3.6ポイント上回っている。設問別でもすべてにおいて正答率が市・県よりも上回っている。 ○単文や疑問文の聞き取りの正答率も高い。 ●絵に関する英文の聞き取りでは、市・県よりは上回ってはいるものの、正答率が40%と低い。	・今後も教科書のリスニングや単元ごとのリスニングテストを通して、英語を聞き取る活動を継続していく。また、声に出して読むことにも重点を置き、英語ならではの発音に慣れさせる。 ・また、日々の授業で一方的な発話でなく、ALTとの授業を活用させながら、やり取りを充実させていく。
読むこと	○読むことに関しては、市より1.4ポイント、県より4.1ポイント上回っている。設問別では、まとまりのある英文の読み取りや長文読解では、市・県を上回っている。 ●設問別で、英語の案内などのよみとりでは、正答率が低くなっている。	・今後も教科書の読み物教材を使用して、和訳ではなく内容の確認に重点を置いて、内容を理解しながら読む活動を取り入れていく。 ・グラフや表から読み取ることを苦手としている生徒が多いため、絵や表を使って内容を読み取る練習をしていく。
書くこと	○書くことに関しては、市より3.5、県より5.9ポイント上回っている。 ○設問別ではすべての項目に対して、市・県より正答率が高い。 ●テーマに基づく英作文では、正答率が32.3%と低くなっている。	・今後も授業で単語テストを定期的実施し、正しく単語が描けるように指導していく。 ・場面や条件を設定して、自己表現できる活動を充実させる。 ・適切な英文を書くための基礎となる文法事項の指導も、繰り返し行うことで定着を図る。

宇都宮市立一条中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家の人と将来のことを話すことがある」の質問に対する本校の肯定割合は市の平均より3.8ポイント、県の平均よりも7ポイント高く、家庭でも将来のことや進路のことが話題に上がっていると思われる。社会体験学習を通してさらに将来に対する興味を深めるとともに、目標に実現に向けて適切な進路情報を提供していきたい。

○「毎日、朝食を食べている」「毎日同じくらいの時間に寝ている」「早寝、早起きを心がけている」の質問ではいずれも市の平均を上回っている。多くの生徒が比較的規則正しい生活を送っていると考えられる。

○「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」の質問に対して8.2ポイント、「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」の質問に対して4.7ポイント、市の平均を上回っている。生徒が自ら学ぶ意欲を高め、解決のためのスキルを高められるような授業をこれからも心がけたい。

○「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」で6.6ポイント、「家で、学校の授業の予習をしている」で5.8ポイント、「家で、学校の授業の復習をしている」で6.9ポイント、「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている」で4.2ポイント、市の平均を上回っている。これまで自主学習ノートの活用に取り組んできた結果、家庭学習の習慣化につながっていると思われる。

●「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」の質問に対して、市より5.1ポイント下回っている。学習したことが将来の夢や進路の目標につながられるよう進路指導を充実していきたい。

●「難しい問題にであうと、よりやる気がでる」の質問に対し、市の平均より8.2ポイント下回っている。これに対して「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している」の肯定割合は、市の平均を6.2ポイント上回っている。また自己有用感に関する項目では、市の平均を下回る項目が多いことから、今後、生徒のよいところを認め励ます取り組みを継続しながら、生徒が自己有用感を高められるよう指導や援助を工夫していきたい。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」の質問に対し、市の平均より7.1ポイント下回っている。また、「グループなどでの話し合いに、自分から進んで参加している」の質問に対して市の平均を11.3ポイント下回る。自分の考えをまとめて書く活動や話し合い活動などを積極的に取り入れて言語活動の充実に向けた取り組みを継続していきたい。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
○効果的な授業の振り返りを行い、家庭学習への意欲を高めさせる。	○「まとめ・振り返り」を意識した授業づくりを行う。	「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」という質問に対する肯定割合は58.1%で県平均を5.6ポイント下回っているが、本校の昨年度の肯定割合よりも1.2ポイント高い値となっている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
○「新聞を読んでいる」という質問に対し、週に1回以上読んでいると回答した生徒の割合は16.2%と低い。およそ6人に1人という割合は十分であるとはいえない。	○NIEへの取り組みを推進し、新聞を身近な情報源の一つとして活用する意識を高めさせる。	各教科および領域の授業において、新聞記事を教材の一部に活用する試みを意識的に行う。